

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1階)

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL: https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyvoCd=0190401042-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

以下の4つの理念のもとに利用者様、ご家族のためにより良いサービスを行います。
・いつも笑顔で利用者様に寄り添うケアに努めます。
・利用者様の安らぎの家であり続けます。
・ご家族様の幸せを全力で応援します。
・美味しい食事で利用者様を笑顔にします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、札幌市西区八軒の市街地に位置し、住宅型有料老人ホーム、デイサービス、訪問介護事業所が併設した3階建ての複合施設の1階2階にある2ユニットのグループホームである。JR発寒中央駅から徒歩圏内にあり、近隣に病院やコンビニがあり利便性のよい地区である。建物は、1階にはデイサービスや談話室、食堂があり、2階3階に住宅型有料老人ホームがある。母体会社は、全国に安心安全な食を提供し、食を中心とした事業を展開している。ホーム内は、玄関を入ると白を基調とした空間で清潔感があり、中央に位置するリビングや食堂で入居者が寛げる場となっている。建物内には、職員の休憩場所も確保されており、静かで落ち着いて休憩が取れるよう配慮されている。住宅型有料老人ホームとデイサービスが併設されていることから、地域とのつながりを併設事業所とともに構築し、より地域に根づいた高齢者認知症介護の事業所としてこれからの期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取組の成果 (該当するものに○印), 項目, 取組の成果 (該当するものに○印). Rows 56-62.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念については職員の理解はあるが、地域密着型サービスとしてはまだ不十分である。	事業所の理念を事務所玄関に掲示し周知している。また、入職時研修及び入職後研修の際に必ず周知し、職員と共有して実践につなげている。	新たにグループホームとしての理念を作成し、地域密着型サービスの理念として職員と共有して実践につながるよう期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症流行に伴い、地域とのつながりはあまり深められていない。	開設時より新型コロナウイルス感染症による感染拡大対策のため、地域との交流はなく運営されている。	地域とのつながりがもてるように、町内会や町内の民生委員、関係機関を活用して、事業所自体が地域の一員として日常的に交流できるよう期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ほとんどできていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そのでの意見をサービス向上に活かしている	あまりできていない。	コロナウイルス感染症の感染拡大対策のため、書面会議にて開催している。	継続的な運営推進会議の開催の中で、参加予定者からの提案や意見などを反映する仕組みづくりができることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者、地域包括支援センターとは電話で情報のやり取りを行っている。	入退居のお知らせや介護保険制度の基準や運営に関する不明点など、随時電話にて連絡し担当者へ事業所の取り組みを伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を通して、また、日常のケアの場面においても常に意識はしている。	採用時研修や年間計画に基づいた年2回の身体拘束に関する研修を行い、身体拘束廃止委員会を定期的に開催及びマニュアルや指針の改定を行っている。事業所全体で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通して、さらにケアの場面においても職員同士で気づけるよう声かけができています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修をまず管理職が受け、職員に確実に伝える方法をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはしっかりと読み上げ、確認を行い、さらに疑問点を都度答えるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話、面会時に個別の面談を行っている。	随時電話にて家族とやり取りを行っている。直接面会は、感染対策を講じながらの実施となっているため、毎月の請求書発送の際に、家族あての写真付きのお手紙を送付するなどして情報提供している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個別の面談を行っている。	3ヶ月に一度の定期面談を行うよう計画し実施している。また、毎月のユニット会議にて職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談の場を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や資格取得時の補助制度を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	グループホームはグループホーム管理者協会に加入しているが、新型コロナウイルス感染症予防で現状はあまりできていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には特にご本人のお話を聞く時間を多く取って、職員で共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時にこれまでの生活歴などをできるだけ詳しく伺い、これからの生活とのすり合わせの話し合いの場を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に至った経緯を詳しく伺っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のような相互信関係を維持できるような距離感を大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の協力ももめつつ、できるだけ希望に沿えるよう面会の時間を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、新型コロナウイルス感染症予防の為、直接会う事はかなわないが、電話や手紙でのやりとりはある。	毎月作成している写真付きお手紙を利用者にも書いてもらい、家族へ郵送している。また、馴染みある理美容業者の来訪にて、散髪するなど馴染みの人と関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	「お互いさま」の言葉を使うようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	あまりできていない。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別に話を聞いたり、レクリエーションの中などで話題として提供頂いている。	日々のケアの中で利用者の意向を確認したり、差し入れや面会の際に家族の意向を確認するなど、希望、意向の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個別に話を聞いたり、レクリエーションの中などで話題として提供頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	小さな変化にも気づけるように情報共有を職員間で行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	気づいたことがあった場合にはミニカンファレンスを都度行い、対応している。	毎月のユニット会議もしくは、状況に合わせて都度カンファレンスを行っている。また、3ヶ月に一度モニタリングを行い、アセスメントは半年に一度を実施して、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に個別に記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	カンファレンスの中でスタッフの意見を拾い、新しい視点を持つようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の取り込みに関してはまだ情報が不十分であると考えている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と担当医の間を取り持てるような声かけを心掛けている。また、家族にも情報提供している。	契約時に説明し同意を得ている。事業所の協力医療機関以外のかかりつけ医を希望する場合は、家族にも協力いただき、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員との意見交換を行い、専門職としての力を発揮してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはすぐに訪問診療、主治医に情報提供書を依頼している。グループホームでの生活はアセスメントシートを送付している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	現在の状況ではまだ終末期を考える段階の入居者がいない為、具体的には動きはありません。	開設後から看取りケアの実践は無いが、重度化した場合に、主治医や事業所から家族へ説明するようにして、家族と話し合いを設けるような仕組み作りはできている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修に加え、緊急時に使用するツールの整理、職員間で確認し合う等の時間を設けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制がまだ不十分である。	地域との協力体制は得られていないが、事業所内で火災や地震、水害等の災害に関する避難訓練を定期的実施している。また、備蓄の管理、BCPの作成も実施できている。	BCPに基づいた避難訓練を実践するとともに、災害時における地域への協力依頼などとして協力体制を構築し、災害時には地域の協力が得られるよう期待したい。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけに関しては気が付いた時点で都度互いに注意し合っている。	日々のケアの中で、職員同士で注意しあい、意識して利用者のプライバシーを配慮した言葉かけや関わりを持つよう対応している。	スピーチロックを含めた接遇に関する内容を話し合い、研修など通じて一人ひとりの人格を尊重した対応ができるような仕組み作りが構築できるよう期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り、希望をくみ取れるように時間をつかっている。困難な場合でもできるだけ選択肢の中からは選んでもらえるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望に沿って支援している	柔軟に対応できるようにその人らしさを尊重した過ごし方を提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みを把握し、それを実現できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事をする事で同じ時点での味具合がわかる。また、そこから会話が広がっている。	距離を取るなどして感染予防対策の中で職員も一緒に食事をしている。食材は、グループ内の会社から調達し、ホーム内で調理して提供している。食事の準備は、感染予防対策のため、職員のみで実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食べ方、分量、歯の状態、好き嫌い等の情報を共有して、観察、食事提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人で行える方にはやや不十分と思われるが、訪問歯科も入り、口腔内の状況をつかむようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を作成し、個別の排泄の傾向をつかんでケアに活かしている。	多くの利用者が自力でトイレに行かれているが、排泄表にて個別の排泄状況を把握している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の特性を理解し、水分や体操などで予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	曜日は決めず、その日の状態等に合わせて朝、入浴カードを貼りだしている。	その日の個々の身体・精神状況に応じて選定し、その日の朝に入浴カードを張り出し、週2回は入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムをつかんで対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報はすぐに確認できる状態にしてあり、薬の変更時には連絡ノートに内容も含めて記載している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションの中で、個々の力が発揮できるような場面を設定している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症予防のため、現在は全く外出していません。	新型コロナウイルス感染拡大予防のため、外出は病院受診のみとなっている。感染症終息後には、外気浴及び花見ドライブなど計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からの預り金はあるが、現在は本人がお金を持つことはありません。また現在は使う機会がありません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話をすることが可能な方には職員が手伝い、やり取りしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごと掲示物(制作物)を展示、入居者様のかたよりが出ないようレクリエーションで作った物等を飾り楽しんでいる。座席や位置等、細かく調整している。	共用空間は、室温や湿度管理がされており、季節ごとの掲示物や行事で作成した作品を掲示している。また、清潔感があり静かで、採光もよく、利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お気に入りの席や気の合った方たち同士の間が過ごせるよう心掛けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながらこれまで使用してきた家具などを配置して工夫している。	利用者がこれまで使用していた椅子やタンスなどを配置して、その人らしい空間作りをしている。また、定期的に清掃もおこなっており、利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個別にできることは行っていただくよう自立支援をしている。		